

経営比較分析表（令和5年度決算）

愛知県蒲郡市 蒲郡市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	30	対象	ド透1未訓ガ	救臨輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
78,140	27,534	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
382	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	382
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
382	-	382

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- [] 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の縦横・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

令和5年5月8日から新型コロナウイルスは感染症法の位置づけが5類に移行されましたが、当院は同年9月末までは60床を専用病床として運用し、10月以降は各病棟で感染対策を徹底して新型コロナウイルス感染症に罹患された患者さんを受け入れました。
このように新型コロナウイルス感染症への対応を行いながら、必要な医療を提供できるよう、名古屋市立大学病院との連携により充実した診療体制を幹として急性期の診療を実施しています。市内唯一の二次医療機関として、市内の救急搬送の89.4%を受け入れ、急性期医療を提供する一方で、近隣市町村からの患者の受け入れもしています。高齢化が進み、糖尿病の罹患率も高いという当市の医療課題に対応するとともに、大学と遜色ない高度な医療を提供する役割も期待されています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、医療収益が改善したものの、新型コロナウイルス感染症対策に係る国庫補助金が減少し、材料費や職員給与費といった費用の増加が医療収益の増加を上回ったため、100%を下回ることとなりました。
②医療収支比率は、医療収益が前年度比11.9%の増加、医療費が前年度比7.9%の増加となり、前年度より改善されました。
③修正医療収支比率は、疾患別体制維持のために基準内ではあるが施設からの繰入金を受けており、100%を下回る状態が続いていますが、入院・外来ともに医療が増加したことで、専従費が改善されました。
④病床利用率は、コロナ患者を受け入れながら、高度な医療を提供できる体制づくり、地域連携の強化による経営改善の取り組みが功を奏したことで、前年度比3.9%の増加となりました。
⑤入院患者1人1日当たり収益は、検査や外来での手術件数の増加、高単価品を用いる化学療法を必要とする患者が増加しており、前年度より改善されましたが、入院と同様に全額平均、類似病院平均を下回っています。
⑥外来患者1人1日当たり収益は、入院患者を受け入れる体制を強化し、医師以外の職員にわたる地域手配の受託、定常業務の効率化等での経費削減の取組といった取組が功を奏したことで、医療収益が前年度比11.9%の増加となりました。
⑦職員給与費対医療収益比率は、社会情勢等の変化による給与上の影響を大きく受け、また、アプレシオンで使用するカメラや電子カルテなどの材料費が増加しており、高止まりしています。引継ぎコンサルト業者によるヘルプマークを活用しながら、薬品費や診療材料費の厳格な管理を継続しながら、平均値より高くなっていますが、ここ数年で改善しつつあります。

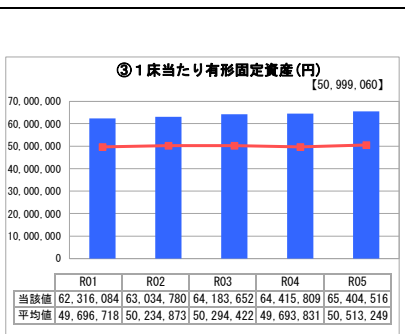
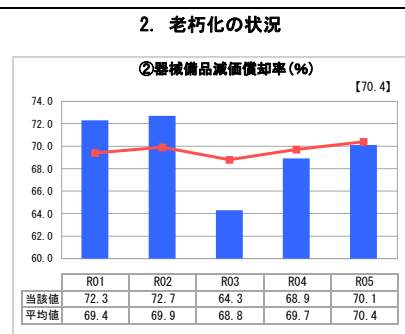
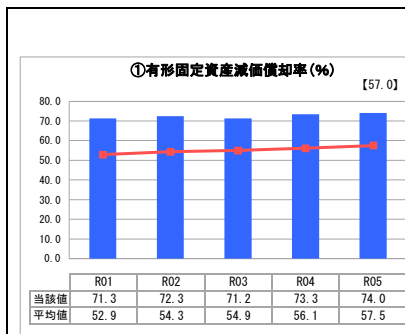
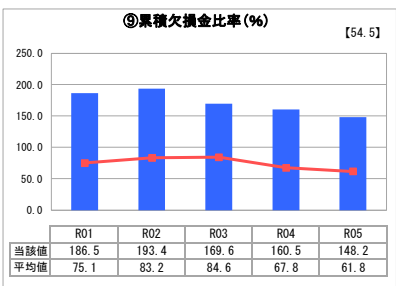
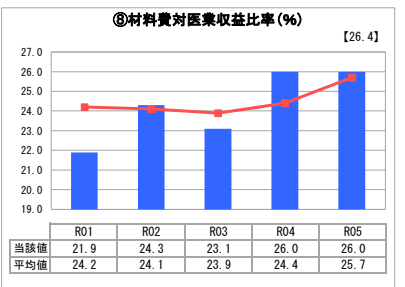
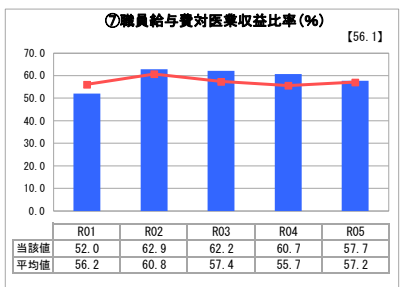
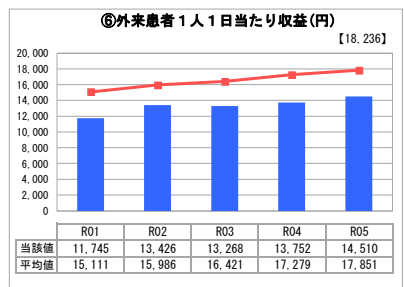
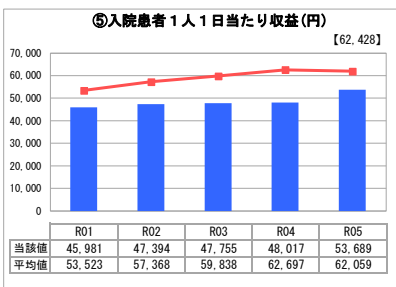
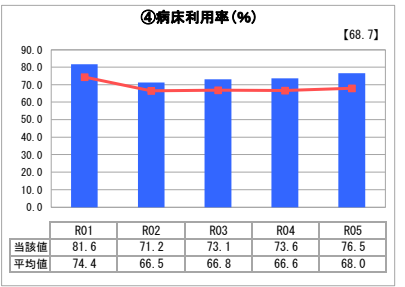
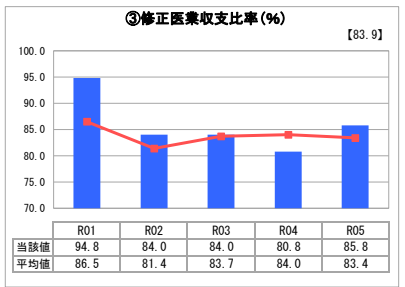
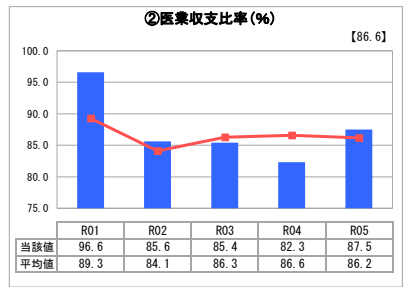
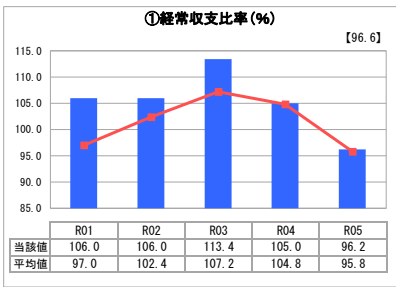
2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、当院は平成9年10月に現在地へ移転してから26年が経過して、病院建物本体の減価償却は令和20年度まで続くため平均値を上回っています。今後は、新棟整備に合わせて、計画的に機器の整備、既存施設の改修を進めていきます。
②器械備品減価償却率についても、前年度より高くなりました。財政状況などを考慮しながら、高価な医療機器を計画的に更新して最適化を図っています。近年はAIを搭載した診療機器や高度な術式に対応するための医療機器を導入しています。また、電子カルテシステムの更新を機に、IT化に向けた診療体制づくりも一層の推進を図っています。地域の急性期医療を担う二次医療機関として、これからも安心して受診していただけるよう医療機器を整備していきます。

全体総括

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行いながら、急性期病棟での必要手術、入院加療を行い、地域の基幹病院としての役割を果たし、その結果、入院、外来ともに収益は前年度を上回ることとなりました。しかし、円安の進行、原材料費、燃料費の上昇などの影響を受けた材料費の高騰、人事院勧告を受けての給与費の増加等、費用の増加が収益の増加を上回ったことで医療収支は悪化し、新型コロナウイルス感染症対策に係る国庫補助金が減少したことから、平成30年度以来の赤字決算となりました。
今後は、令和5年6月に公表した「蒲郡市民病院経営強化プラン」に掲げた「急性期医療の充実を中核としたこれまでの取組みの継承」「新棟による更なる機能の拡充」「地域の住民の生命を守るための機能の強化」「大学等との連携強化、地域での機能分化」「新たな環境変化に対応できる病院運営、経営の更なる進化」といった方向性のもと、寄附講座による医療の充実、診療体制の強みを積極的にアピールして新規患者を確保して入院・外来収益の更なる向上を図ります。費用については、コスト削減を一段落として専断を行い、新棟に合わせた、計画的に機器の整備、既存施設の改修を進めていきます。また、働き方改革を踏まえながら、医療スタッフの確保、育成を行います。
こうした取組みにより、経営基盤を強化し、質の高い医療の安定的な提供に努めてまいります。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。